

レポート・論文の書き方 Part 1

I 「研究調査法」の小論文の形式

MLAの形式に準拠する。

II 最終アウトライン

A なぜアウトラインが必要か

- 1 論理的に読者を説得するため。
- 2 必要な内容の抜け落ちを防ぐ。
- 3 内容の重複を防ぐ。
- 4 全体のバランスをとる。

B アウトラインの展開

主題にふさわしい、論理的な展開をする。

1. 序論
2. 導入（背景の説明）
3. 問題提起
4. 論証（考察や分析）
5. 結論

C アウトラインの項目（サンプル参照）

*大項目はローマ数字	I II III IV V VI VII...
*その下はアルファベット大文字	A B C D E...
*その下はアラビア数字	1 2 3 4 5...
*その下はアルファベット小文字	a b c d e...

【ワープロメモ】

ローマ数字の打ち方

→ 大文字アルファベットのIやVを使う

III 本文の構成

A 序論：全体の5%程度（サンプル参照）

序論に含める内容

1. 論文の目的（テーマを選んだ理由、テーマの重要性など）
2. 何を知りたいか
3. 命題
4. 論文で取り扱うテーマの範囲（論じたい人物、事件、時期・時代、事柄など）
5. 調査方法

B 本論：全体の85%程度

1. 段落の構成：段落の初めにトピック・センテンスを示し、補足説明をする。
2. 各章の構成：つなぎの段落や文章を入れて、全体の流れをスムーズにする。

C 結論：全体の10%程度

1. 本論の記述内容から、論理的に導き出す。
2. 本論でわかった事をまとめる。
3. 序論に示した命題の内容を異なる表現で再録する。
4. (感想ではなく) 意見、提案を述べる。
5. 今回の調査では扱いきれなかった研究課題の指摘をする。

IV 命題とは

論文やレポートにおいて**著者の主張したい中心的論点 (main idea)** を述べたもの。

Thesis statement のこと。序論において、その論文でこれから論議する問題の論点を簡潔に表現した文章。単なる要約ではなく、「何故そうなっているか」という問いに対する因果関係（原因と結果のつながり）についての自分の意見や提案を示したもの。

命題の例

- × 最近医療現場で「インフォームド・コンセント」という言葉がよく聞かれる。このことは日本ではあまり浸透していないので、医師や患者の関係を変えていくことが必要だと思われる。
- △ 最近医療現場で「インフォームド・コンセント」という言葉がよく聞かれる。このことが日本であまり浸透していないのは、**日本特有の医師と患者の全面的な依存関係が原因と考えられる。**
- 最近医療現場で「インフォームド・コンセント」という言葉がよく聞かれる。この大切な事柄を日本で浸透させるには、**患者に医療に対する「自己決定権」の意識を持たせることと、医師に病状や治療方法などを患者に説明する義務があることを認識させる必要がある。**